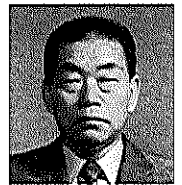




白 門 板 橋

2002. 9. 20 VOL.18

編集 中央大学学員会 東京板橋区支部
発行 〒175-0082 板橋区高島平2-23-3-101 TEL 03-3550-3300



■定時総会を終えて——

本部と支部の周年記念事業に積極的参画を

支部長 小日向 孝介

去る六月二十二日、中央大学学員会板橋区支部は多数会員の出席の下、学員会本部並びに大学本部から役員をお迎えして、盛況のうちに定時総会を終えることができました。

支部活動につきましては、日頃会員の皆様のご努力のお陰をもちまして、当初計画した事業も概ね完了して、その承認をいただきました。特に役員改選につきましては、温かいご支援をいただき執行部のほぼ全員が再任されました。心から感謝申し上げますと共に、今後も一致協力して会員の増強、本部との連携強化及び特色を生かした地域支部の活性化等に取り組んで参りたいと思っておりますので、引き続き会員各位のご協力をお願い申し上げます。

また昨年は、都区内支部連絡協議会を当支部が担当して実施しました。その際の白門グリークラブの熱唱は、出席者の大きな感動を得ましたが、来年は当支部が創立十五周年を迎えることとなりますので、記念事業を実施したいと考えております。

母校・中央大学は、創立以来百二十有余年にわたり、諸先輩が営々と築き上げてきました実績と伝統に立って二十一世紀に相応しい大学造りをめざして、本部役員は日夜健闘されております。幸い、昨今日本全土を沸かせたサッカーW杯の経済効果と政府の景気底打ち宣言の相乗効果が事業計画の追い風となってくればと期待しております。当支部でも全会員一致して、この百二十五周年記念事業に積極的に参画し、後方支援の役割の一部でも果たしたいと考えております。

最後に中央大学のますますの発展と会員各位のご健勝を祈念して、再任のご挨拶と致します。

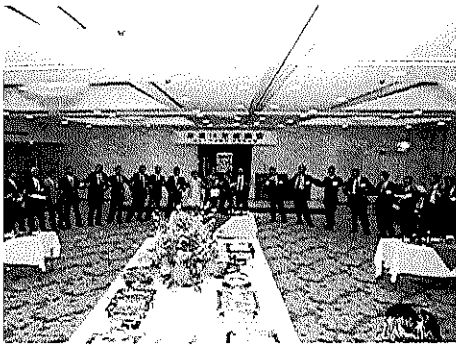
支部二ユース

定時総会盛會に終わる

第十四回・定時総会は、去る六月二十二日(土)午後六時から、区立文化会館大会議室を会場に、学員会本部及び大学から四名の来賓に、会員六十九名が出席して盛大に開催されました。

定刻六時に開会し、物故者に黙祷を捧げた後、小日向支部長の挨拶をいただき、議事に入る。

議事の詳細は、四頁以降に掲載



▲「惜別の歌」を斉唱する会員の面々

のとおりですが、会員増強、母校創立一二五周年記念事業への募金協力及び支部会費納付率の向上等の事業計画並びに役員改選を含めて全六議案が、すべて異議なく賛成多数で承認可決されました。手際よく議事が進行し、来賓のかたがたからも祝辞をいただいた後、秋の旅行案内を済ませて記念撮影。滞りなく、第一部を終了しました。

■ 懇談こそ懇親

支部顧問・石塚板橋区長の挨拶で第一部が開宴。板橋区支部なじみの学員会・長田顧問の祝辞をいただき、小野田顧問の発声で乾杯。祝電の披露、く歓談。

総会初参加の会員紹介など恒例の懇親風情が展開して、日頃疎遠な仲間が一同に会するためか、料理も忘れて歓談に花が咲く。

先輩、同輩、後輩の隔てない懇親会は地域支部の良きで、準備したカラオケのマイクを握る時間も惜しんだ要たけなわで、中締め。出席者全員で肩を組み、校歌・惜別の歌を声高らかに合唱して、別れを惜しみました。(池田記)

「散る桜を惜しむ会」

坂下ブロックの手で準備された支部恒例の観桜会が、去る四月六日(土)、区立城北公園で行われました。今年は例年になく桜の開花が早く、この日は新緑の葉桜の下で初夏の日差しを避けながら、表題どおり「散る桜を惜しむ集い」となりましたが、新規参加者を含め、四〇名の仲間が楽しい杯を交わしました。(三宅記)

「 囲碁部も早々と 募金活動スタート」

囲碁部は、去る七月に母校創立一二五周年記念事業に協賛して、部員一同で募金した金、五万円也を母校へ寄付し、早々と支部事業計画の実施にスタートしました。

○ 月例会は秩父へ遠征

囲碁部八年度の月例会は、二十四日(土)〜二十五日(日)にかけて埼玉秩父へ遠征し、越後屋旅館を会場に残暑を払いながら、泊まりがけの月例会を行ない、棋力向上に努めた。(水野記)

秋の旅行日程等決まる

支部恒例の秋の旅行が、熱心な幹事さんの下見(自費)を経て、日程など具体的な内容が、次のとおり決定しました。

- ・ 日程 十一月十六日〜十七日
- ・ 旅行先 信州・角間温泉 岩屋旅館
- ・ 交通 真田一族の隠し湯 観光バス貸切り
- ・ 旅行費用 二九、五〇〇円
- ・ 出発時間 午前八時十五分
- ・ 申し込み 板橋座文ホール前で旅行幹事あて 同封の「申込み書」
- ・ 先着二〇名様まで
- ・ 近藤・川崎・三宅

TEL&FAX 03-3579-8780

(三宅正代あて)

■ 年会費納入のお願い

平成十四年度の年会費が未納の方は、納入下さるようお願い致します。(久米)

母校のニュース

「炎の塔」竣工

母校創立二二五周年記念事業の一環として、多摩キャンパスに建設中だった学生研究棟「炎の塔」が、去る七月十五日に竣工した。



▲写真は、竣工した「炎の塔」

野球部春季リーグで二位

東都大学野球春季リーグ戦は、去る五月二十九日に閉幕したが、母校・中大野球部は、前季の優勝校・日大を撃破するなど善戦し、一時は優勝をねらえるところまで健闘したが、惜しくも二位にとどまった。

「炎の塔」は、記念事業のビックプロジェクトであるキャンパス整備の中で、完成第一号である。同棟で行われた竣工式には、関係者凡そ一五〇名が参集して盛大に竣工を祝った。(学員時報)

戦国東都にあつて、中大が健闘したのは昔川投手の熱投によるもので、秋季リーグ戦が楽しみである。古岡投手の復調次第で、初戦の青学大戦に勝点をあげると、優勝も夢ではない。

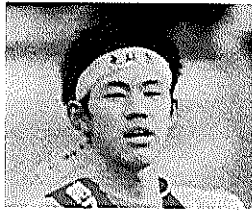
ブクラスの選手が入学したので、来春の大学箱根駅伝への期待がふくらむ。(栗原記)

成田スピード出世

大相撲五月場所、幕下十五枚目格付け出でデビューした成田(尾車部屋)は、七月場所で見事勝ち越し、十両に昇進した。デビュー一場所で見事になったのは、史上五人目の快挙であり、しこ名も「豪風」と改め、九月場所が大いに期待される。

高校駅伝の逸材が入学

昨年高校駅伝で、常に日本人選手のトップを飾った加藤直人君



(土岐商業高校)が、今春母校の中大に入学した。他にも大牟田・西脇工業高校からトッ

九月場所七百目(土)に、板橋区支部の有志十七名が、白門出身力士の応援に大挙して繰り出すことになっている。(栗原記)



▲写真は、豪風関

訃報

謹んで

お悔やみ申し上げます
(敬称略)

▼田中 義一

昭和三年経済学部卒

板橋区本町三二ノ四

平成十四年三月三日逝去

・(尚健屋社長)

▼星野 昭

昭和三年経済学部卒

板橋区板橋二ノ五四ノ三

平成十四年三月十七日逝去

・税理士

(事務局)

◆会員増強運動展開中

あなたの先輩・同輩・後輩
を板橋区支部に入会をお誘い
ください。

定時総会決議報告

第十四回・定時総会は、去る六月二十一日(土)午後六時から、区立文化会館大会議室を会場に会員六十九名が出席して開催されました。

以下、決議事項を報告します。

5月11日(金) 常任幹事会
 区立産文ホール 24名
 5月18日(金) カラオケ大会
 日本エンドレス 21名
 6月1日(金) 幹事会
 区立産文ホール 41名
 6月14日(金) 定時総会の最終
 打ち合わせ
 文化シヤッター研修所 5名
 6月23日(土) 定時総会
 区立文化会館大会議室 67名
 7月13日(土) 会報編集会議
 グランドアーク半蔵門 5名
 7月25日(水) 正副支部長
 担当役員会
 文化シヤッター研修所 10名
 8月24日(金) 会報編集会議
 日本シヤッター協会 6名
 9月6日(木) 実務担当役員会
 (都区内支部連絡会)
 サンイチ 8名
 9月10日(月) 会報及び旅行案
 内発送作業
 文化シヤッター研修所 14名
 9月18日(火) 都区内支部連絡
 会案内発送作業
 日本シヤッター協会 4名
 10月12日(金) ゴルフ同好会
 コンペ
 ノーザン錦ヶ原ゴルフ場 16名
 10月16日(火) 実務担当役員会
 (都区内支部連絡会)
 サンイチ 12名
 10月19日(金) 第6回・カラオ
 ケ大会
 大山・フジハナ 18名
 10月27日(土) 都区内支部連絡
 会 区立文化会館大会議室
 総員99名
 11月8日(木) パソコン同好会
 教室開講 計10回
 志村ITサロン 延べ55名
 11月17日(土) 18日(日)
 二天関所跡と母畑温泉を訪ね
 る旅 31名
 1月12日(土) 会報編集会議
 栗原二郎邸 6名
 1月18日(金) 新春の集い
 区立文化会館大会議室 81名
 2月25日(月) 会報編集会議
 ハイライフ・プラザ 5名
 3月11日(月) 会報及び観桜会
 案内発送 文化シヤッター
 研修所 11名
 3月17日(日) 観桜会打ち合わせ
 (坂下ブロッコ) よし邑8名
 3月23日(土) 足立支部設立祝
 賀会 東京マリアージュ2名

■第一号議案
 平成十三年度・事業報告
 大野事務局長から次のとおり報告され、承認されました。

*

4月8日(日) 観桜会
 区立茂呂山公園 32名

4月26日(木)
 カラオケ同好会会議
 大山・高辻郷 7名

4月28日(土) 囲碁同好会
 練馬支部と親善囲碁対抗戦
 向山庭園 12名

毎月定例会を開催
 5月7日(月)
 総会資料の打合わせ
 久米事務所 4名

☆☆☆☆ 新入会員のご紹介

(敬称略・順不同)

- ▽井田 不二男 33法卒
 板橋区東坂下一丁目
 六ノ一〇ノ三二四
- ・会社員
- ・ゴルフ・弓道

- ▽村上 紘一 37商卒
 板橋区志村二丁目
 一六ノ三三ノ一五〇五
- ・イタリアワイン輸入販売
- ・料理

- ▽秋葉 信明 45法卒
 松戸市小金原二丁目
 六ノ一四
- ・板橋北郵便局長
- ・読書・旅行・料理

- ▽菅 邦博 54法卒
 板橋区上板橋二丁目
 一八ノ五
- ・管 行政法務事務所
- ・読書

第2号議案 平成13年度・収支決算報告の件

平成13年度・収支決算報告書
(自平成13年4月1日～至平成14年3月31日)
【収入の部】 (単位:円)

科 目	予算額	決算額	増減額	備 考
平 公 費	705,000	564,000	▲ 141,000	3,000円×188名
総会公費	560,000	478,000	▲ 82,000	7,000円×63名
旅行会公費	840,000	987,396	127,396	寄付金37,000円 25,500円×31名 寄付金54,000円
親板会会費	175,000	120,000	▲ 55,000	4,000円×30名
新年会会費	560,000	573,000	13,000	7,000円×80名 寄付金13,000円
常任幹事会会費	100,000	48,000	▲ 52,000	2,000円×24名
幹事会会費	88,000	80,000	▲ 8,000	2,000円×40名
補助金				
受取利息	10,000	18,000	8,000	中央大字学債・第1回利息
前年度繰越金	2,048,010	2,048,010	0	
計	5,085,010	4,896,406	▲ 188,604	

【支出の部】 (単位:円)

科 目	予算額	決算額	増減額	備 考
総 会 費	525,000	459,340	▲ 65,660	文化会館 67名
旅行会費	840,000	1,007,396	167,396	母畑温泉 31名
親板会費	175,000	120,000	▲ 55,000	茂呂山公園32名
新年会費	560,000	435,240	▲ 124,760	文化会館
常任幹事会費	100,000	52,080	▲ 47,920	産文ホール
幹事会費	88,000	91,700	3,700	産文ホール
会報制作費	230,000	250,445	20,445	年2回発行(3・9月)
印刷費	50,000	70,058	20,058	総会資料他
通信費	100,000	123,420	23,420	会報 2回×名簿他行事案内
通 賃 費	100,000	12,400	▲ 87,600	文化研修所他
事務所費	50,000	0	▲ 60,000	
事務用品費	30,000	10,951	▲ 19,049	
慶弔交際費	150,000	114,250	▲ 35,750	支部総会出席及び会員慶弔11名
同好会補助費	50,000	40,000	▲ 10,000	
手数料	10,000	9,105	▲ 895	謝辞、お祝い、お礼、お詫
雑 費	20,000	48,400	28,400	年会費振込料
名簿作成費	190,000	90,676	▲ 99,324	支部旗 100本作成、68本頒布
都内支部連絡会 予備費	50,000	45,245	▲ 4,755	文化会館 72名
次年度繰越金	1,848,010	1,805,760	▲ 42,250	
計	5,086,010	4,896,406	▲ 189,604	

貸借対照表
(平成14年3月31日現在) (単位:円)

資 産 の 部			負 債 ・ 剰 余 金 の 部		
科 目	摘 要	金 額	科 目	摘 要	金 額
現 金	平元有高	121			
郵便振替口座	3-568929	33,930			
郵便貯金	68516001	864,649			
郵便定期貯金	3728043	72,000			
商 債 金	6月総会会場費	35,000			
投資有価証券	中央大学学債	900,000	繰越剰余金		2,048,010
			当期剰余金		▲ 142,310
計		1,905,700	計		1,905,700

以上のとおり決算報告致します。

平成14年6月22日

支部長 小日向 孝介
会 計 久米 栄雄
会 員 益田 永治

以上、支部決算につき監査の結果、適正にかつ適法に表示していると認めた。

平成14年4月26日

監 事 栗原 泰房
監 事 坂井 健二
監 事 森 英正

■第三号議案

平成十三年度・収支決算報告並びに会計報告

※

益田会計幹事から左表のとおり報告の後、栗原(泰)監事の監査報告があり、場内に諮ったところ異議なく賛成多数で承認可決されました。

■第三号議案

平成十四年度・事業計画(案)

※

大野事務局長から次のとおり説明があり、賛成多数で可決されました。

- 一、定時総会及び懇親会の開催
6月22日(土)
- 二、懇親会の開催
区立文化会館
- 三、懇親会の開催
区立城北公園で開催済
- 四、旅行会
秋に予定
- 五、新年会
平成15年1月予定

三、他支部との交流

*都区内支部連絡会など

四、中央大学創立二二五周年記念

*事業への協力(募金)

*団体・会員個人とも
五、会員増強運動

今年度も継続して会員増強に努める。

*ブロック別に展開

六、会費納入率アップの推進

会費未納入者が多く支部運営に支障を来している。
*ブロック別に展開

七、同好会活動の促進

*囲碁同好会

■会費納付のお願い

支部年会費が未納の方は同封の「払込取扱票」でお振込下さい。(会計)

毎月第3土曜に月例会

・ゴルフ同好会 3・9月開催

・カラオケ同好会 5・10月

・パソコン同好会 4月開講

八、広報活動

・会報「白門板橋」の発行
年一回 3・9月発行

・中央大学学員時報への寄稿

・都区内他支部へ会報送付

3・9月

— 白 門 板 橋 —

第4号議案 平成14年度・収支予算(案)の件

平成14年度・収支予算(案)

(自平成14年 4月 1日～至平成15年 3月31日)

(単位:円)

【 収入の部 】			【 支出の部 】		
科 目	金 額	備 考	科 目	金 額	備 考
征 会 費	726,000	3,000×240名	総 会 費	560,000	
総 会 会 費	560,000	7,000× 80名	旅行 会 費	880,000	
旅行 会 会 費	846,000	28,000× 30名	観 覧 会 費	120,000	
観 覧 会 会 費	120,000	4,000× 30名	新 年 会 会 費	560,000	
新 年 会 会 費	560,000	7,000× 80名	常 任 幹 事 会 費	100,000	
常 任 幹 事 会 費	100,000	2,000×25×2	幹 事 会 費	80,000	
幹 事 会 会 費	80,000	2,000×40×2	会 報 制 作 費	230,000	
受 取 利 息	16,000	学債第2回利息	印 刷 費	50,000	
			通 信 費	100,000	
			會 議 室 費	50,000	年2回発行
			事 務 用 品 費	80,000	封筒、会議資料
			慶 弔 交 際 費	130,000	会報送料他
					役員会議
			同 好 会 補 助 費	50,000	
			振 込 手 数 料	10,000	50,000円 3支部
前年度繰越金	1,905,700		寄 付 金	100,000	5,000×16名
			会 員 増 添 費	100,000	囲碁、将棋、お7
			雑 費	30,000	他 各10,000円
			子 備 費	1,661,700	大学 125周年記
					念事業協力の金
					初年度繰出金
					目標額50万円
計	4,901,700		計	4,901,700	

■第四号議案
平成十四年度・予算(案)

益田会計幹事から左表のとおり説明があり、場内に諮ったところ異議なく賛成多数で可決承認されました。

役員が任期満了となるため、改選にあたり次の役員選任の方針説明があり、一部の方を除いて、ほぼ全員が再任されました。

■第五号議案
役員改選の件

今総会終結のときをもちつて、全

の意思を尊重する。

②健康上の理由などで辞任の申し出があった役員には、個人

任・昇任をお願いする。

①在任中の活躍など支部活動に積極的に貢献した役員には再

選任方針

▽顧問

田永 嘉彦

▽濱 巖

石塚 輝雄

▽小野田 元

小野田 元

▽相談役 ☆永野 公一

☆永野 公一

▽武内 崇泰

武内 崇泰

▽栗山 秀男

栗山 秀男

▽片桐 久雄

片桐 久雄

▽坂井 健一

坂井 健一

▽栗原 泰房

栗原 泰房

▽森 英正

森 英正

▽監事

栗原 泰房

▽坂井 健一

坂井 健一

▽栗原 泰房

栗原 泰房

▽森 英正

森 英正

今回の役員改選では、小日同支部長以下、執行部全員が再任されました。

▽支部長 * 小日同 孝介

▽副支部長 * 巨勢 典子

▽岩澤 忠弘

▽平山 惟美

▽栗原 三郎

▽川口 正

新役員は次のとおりです。

〔敬称略・卒年順記載〕
☆印は新任を示す

▽幹事長 池田 亘利

▽副幹事長 菅 東一

▽事務局次長 大野 正浩

▽事務局長 三宅 正代

▽常任幹事 松島 道宣

▽常任幹事に新任三名 久米 英雄

益田 永治

△ 田中 裕次

△ 小野沢 隆一

△ 関上 正夫

△ 関 裕次

△ 田中 泰治

△ 田中 義雄

△ 猪橋 進一

△ 佐藤 道則

△ 佐藤 義

△ 宮村 徹

△ 大森 守

△ 堀内 茂

△ 須田 幸男

△ 三田 喜一

△ 吉野 昭一

△ 徳永 勝彦

△ 岡田 利彦

△ 中三川 孝幸

△ 榎本 都行

△ 小宮 仁

▽幹事に新任六名
紅一点に山田 節子さん

▽幹事 清水 治男
▽同 * 原 素之
▽同 大庭 登
▽同 川上 久雄
▽同 佐藤 幹夫
▽同 本橋 順
▽同 若井 寛男
▽同 竹田 和夫
▽同 笠原 優
▽同 蒲生 年公

◆ 欲談に華添える女性会員

●今年の支部総会には、女性会員が六名出席した。これは支部創設以来のことで、まさにニュースである。会員名簿をご覧いただくと、女性会員は一三名在籍しているが、半数近い六名の方に出席していただいた。

●下の写真では、記念撮影の後を育児の関係で一人早退され減りましたが、それでも懇親会場が従来になく華やいだ雰囲気を感じ出したのは、女性会員の無

▽幹事 原田 幸雄
▽同 吉岡 聯太郎
▽同 大泉 喜義
▽同 西元 文武
▽同 浅香 善亮
▽同 飯島 健市
▽同 ☆佐藤 啓司
▽同 中山 修
▽同 ☆山田 節子
▽同 早坂 光平
▽同 内田 繁夫
▽同 ☆金子 益朗
▽同 古沢 政和

▽幹事 ☆浅野 国昭
▽同 豊田 哲夫
▽同 ☆深山 宏
▽同 ☆露木 久剛
▽同 小林 武男
▽同 近藤 正
▽同 若木 康夫
▽同 碓谷 幸照
▽同 川崎 力男
▽同 山本 仁二
▽同 池内 稚莉
以上

形のパワーであることを誰もが認め、欲談の輪を一段と大きなものにしてくれました。



総会だけにとどまらず、秋の旅行会、新春の集い、観覧会など支部の行事には、都合のつくかぎり積極的に参加していただきたいと思う。●板橋支部は、女性会員の絶対数が少ないだけに、いずれの集いも女性会員は大事にされています。家庭のある人も仕事を持つ人も、支部の行事は別世界なので、先輩と先輩と、そして後輩とも大いに語らう、ご自分を磨いて大きくなっていただけたらと思う。たまに「校歌」を歌うのもいいものです。

(編集部・日記)

ブロック長人事

六月二十一日

(敬称略・☆印は新任)

▽板橋 三宅 正代
▽大山 佐藤 道則
▽中板橋 田中 泰治
▽大谷口 垣内 茂
▽常盤台 小野沢 隆一
▽前野町 ☆吉野 昭一
▽志村 三田 喜一
▽坂下 蒲生 年公
▽徳丸 ☆内田 繁夫
▽赤塚 猪橋 進一
▽高島平 原田 幸雄
▽区外 竹田 義雄
久米 和夫 英雄

南條文学拾い読み



「おれ筑前、我敗れたり」

著者／南條 範夫

発行所／株式会社文藝春秋

著者・南條範夫は、明治四十一年の東京生まれ。今年九十三歳。

東大卒業後助手、満鉄を経て戦後教壇に立ち、國學院大学経済学部から中央大学経済学部講師。かわら作家として活躍し、三十一年に「灯台鬼」で第二十五回直木賞を受賞した。

高齢にもかかわらず、得意の史伝を平成五年から十年までの五年間、主として『オール読物』に発表した作品が、今年三月に文庫本で出版された。

～中略

慶長五年（一六〇〇年）、関ヶ原役の起こる前、家康は上杉景勝討伐のために出陣。真田父子もその催促に応じて出動し、下野国宇

都宮近くの犬伏というところに来た時、石田三成・大谷吉継の密書が齎された。

昌幸はこれを読み終わると、側近を集めて、上方において石田らが秀頼を擁立して反徳川の兵を挙げたことを告げ、自分にも味方に参加するように求めてきた、皆どう思うか、と問うた。

信之はこれを聞くと、即座に、「父上は年来徳川殿とは不仲のことが多かったこと故、秀頼公の名でお招きを受けた以上、これに応じられても誰も不審に思うものはないでしょう。また弟の幸村は、大谷吉継殿のむすめを妻としている身、義父の招きに応じて上方に

参るのが筋道。ただし、私は、年来家康殿の恩顧を蒙ること深く、また本多のむすめを妻として所縁疎かならぬ仲、徳川方について、徳川家と興亡をともにするほかにと思いますが」と、きっぱり言い切る。～以下略

この書物に限っては、読み終えて「文学」の香りは少ない。文庫本に十一人もの、歴史に記されない武將の記録を圧縮して描いているから無理な注文かも知れない。しかし、面白く興味深く読めた。

家系存続のためには、父子が東西に別れて戦う道を選んだ真田安房守昌幸。母も娘も、妻さえも差し出した奸悪の男・宇喜多和泉守直家等、戦国に生まれ、戦に敗れた十一将の生涯を鮮やかに描く、敗北の記録のダイジェスト版。

現代にも通じることだが……、乱世には忠も義もなかった。そして、武士は深いものばかり思っていたのは大きな間違いで、敗者にもプライドがあり、「武士も人の子」ということを教えられた貴重な一冊である。ぜひ一読をお勧めしたい。(平山記)



大相撲名古屋場所
中大出身力士の星取表

成田が十両に昇進

しこ名を豪風(たけかせ)に改名

▽出島(武蔵川)

本名・出島武春 平8卒

東前頭三枚目・勝三敗十休

▽玉春日(片男波)

本名・松本良一 平6卒

東前頭五枚目・八勝七敗一休



豪風 関

▽成田(尾車)

本名・成田 旭 平14卒

幕下西3枚目 四勝三敗

▽田中(友綱)

本名・田中康弘 平10卒

幕下西8枚目・四勝一休

▽若枚(松ヶ根)

本名・中尾洋規 平7卒

幕下西20枚目 全休

(池田記)

■徳丸という地名

現在は高島平と呼ばれている
一帯を、昔は「徳丸が原」と言
っていた。

明治四年に廢藩置縣が行われ
た。この頃板橋は、浦和県から

地名の由来…⑩

「徳丸」の巻

東京府豊島郡に編入された。こ
の中に徳丸本村と徳丸脇村があ
った。

「昔、埼玉の方から来た坊さ
んに徳丸という子供がいて、そ
の名をとった。」という話が、
北野神社で発見された「武蔵国豊

板橋のある旧家に伝わっている。

また、こういう話もある。

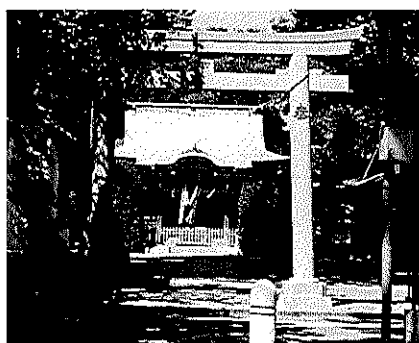
板橋には、高麗という地主さん
が多い。これは埼玉の高麗(こま

ま)と違い「こまま」と発音する。

朝鮮半島からの帰化人が、この名
をつけたと思われるが、唐から来

た人々も沢山いたはずである。

唐では外敵から守るため、街に



▲写真は、徳丸北野神社

城壁をつくり、「丸」と呼んだ。
唐から来た人の丸、つまり唐丸が
訛って「徳丸」になった。諸説が
あり、どれが正しいのかは分から
ない。

■古文書での検証

次に挙げるのは、数年前に徳丸

嶋郡徳丸郷天神宮紀」に書かれ
ていたものである。

これには「一千年くらい昔

この地方に疫病がはやり、死人
が大勢出た。この時、里人のあ

る人が古い朽ちかけた梅の木に
疫病が止むことを祈った。する

と不思議なことに潮の退くよう
に治まった。

これは梅の木に精霊が宿って

いるからであり、梅の木は菅原

道真公が愛する木であるので、

この地に祠を設置して天満宮と

した。」との記載がある。

さらに「当地号徳丸古者曰徳

磨云者草截此所也」との文もあ

る。これは当地を徳丸というの

は、「徳磨」(とくまろ)とい

う者が此の所の草をたちきった

ことからだと言っている。この

徳磨という人物が先述の里人

であり、祠を造った中心人物は

ないかと思われる。

*

本稿の執筆にあたり、徳丸の

北野神社を訪ね、病氣療養中の

宮司・大野将様のご厚意により

資料等をいただいた。

(中三川記)



編集後記

●大相撲の五月場所で幕
下付け出してデビューした
成田(尾車)が二場所です
両に昇進。春季リーグ戦で
健闘した野球部の活躍と
ともに数少ない明るいニュー
スだった。●母校二二五

周年記念事業の募金活動が

活発に動き出した。卒年支

部や方々の支部から募金依

頼の書類が配達されて、こ

ればかりは気が重い。母校

発展への貢献度は、募金の

絶対額で決まるだけに、誰

にも気が重い。●今年度

から編集委員会の強化を図

るため、金澤益朗君に参加

してもらったことが決定。大

手の出版社で活躍したプロ

で、歓迎会の酒の飲みっぷ

りもよく、「誌面」づくりに

新風を吹き込んでくれるに

違いない」と、期待は大き

い。近い将来、編集長を交

代して隠居できるのが楽し

みである。

(平山記)